

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所ミルキーウェイ(放課後等デイサービス)		公表日		令和8年 4月 1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	17	7	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容や人数に応じて、スペースを分けて支援している ・ベッドエリアと車椅子利用児用エリア、机エリアなどで区切るなど物理的に工夫している ・スタッフや利用児の人数が多い日には和室を活用し、環境調整を行っている ・パーティションで区切ることで、各場所で十分なスペースを確保している ・重心・重心外のスペースを分け、各部署で活動できるよう配慮している ・車椅子やバギー使用児同士がぶつからないよう配慮して行動している 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児によっては狭く感じる場合がある ・床が冷たい季節(冬)には、お昼寝時の寒さ対策が必要 ・支援場所や人数によってはスタッフの追加配置が求められる場合がある ・活動を分ける等、臨機応変な空間調整が必要 	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	25		<ul style="list-style-type: none"> ・利用児に対して個別支援ができるよう、基本的にマンツーマンで配置している ・利用児の状態や重心児・医療的ケアの必要性に応じ、手厚く職員を配置している ・利用定員や子どもの状態に応じ、臨機応変に配置数を調整している ・基本的に必要以上の人数を確保して、安全かつ余裕を持った支援ができる体制にしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・急な欠員が出た場合、ぎりぎりになることがあり、+1人確保できる体制が望ましい ・「手厚く配置されているが、もう少し効率的に減らして支援できればさらに良い」という意見もある 	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	20	6	<ul style="list-style-type: none"> ・パーティションを使用して、子どもの特性に応じた空間を区切っている ・パーティションの色分けや写真カードを活用し、誰の場所か、何のための場所かが視覚的にわかるよう工夫している ・スケジュールや活動内容を児の特性に合わせて作成している ・おもちゃや課題を手に取りやすい位置に配置するなど、アクセスしやすくしている ・マットや乗車したままの支援など、個別の身体的・心理的的特性に応じた環境配慮を行っている ・限られたスペースでもできる限り工夫し、利用児に配慮した環境設定を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールから入るドアの使い勝手が悪い場合がある ・一部おもちゃや備品の配置について改善余地がある ・スペースや設備に限界があるため、さらに環境をわかりやすくする工夫を継続する必要がある 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	19	7	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容に合わせて床や椅子、スペースを調整し、使いやすい環境にしている ・毎日の清掃や整理整頓を行い、清潔で快適な空間を保っている ・パーティションや電気スタンド、加湿器などで環境条件(明るさ、湿度、日差し)に配慮している ・利用児の体格や特性に合わせて、活動空間を分ける工夫を行っている ・天井が高く開放感があり、バリアフリーの床で活動しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・虫やカビの発生など、こまめな掃除・消毒が必要 ・午前中に掃除できる人が不足している場合がある ・細かい部分(ベッド下、マット下など)の掃除に改善余地がある ・消毒作業が追いつかないことがある 	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	26		<ul style="list-style-type: none"> ・パーティションやカーテンを使用して、個別空間を柔軟に作っている ・和室などの別空間を必要に応じて使用できるようにしている ・着替えや個別支援など、活動内容に応じて部屋や場所を使い分けている ・状況に応じてパーティションや別室を組み合わせ、個別支援が行える環境を整えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・和室が埋まっている場合、もう一つ別の部屋があるとさらに利用しやすい ・パーティション等の柔軟性はあるが、利用児数が多い場合は調整が必要 	
	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	19	5	<ul style="list-style-type: none"> ・会議やミーティングの中でPDCAサイクルを意識して話し合いを行っている ・各部署での話し合いやヒヤリハットの共有を業務改善に反映している ・立ち話や日常のやり取りでも、記録やノートを使って内容を全体に伝える工夫をしている ・ミーティングや重心会議で目標確認・振り返りを行い、次の行動にフィードバックしている ・昼礼・朝礼で本日の行動やヒヤリハットの共有を実施している 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部職員のみで話が進む場合があり、全員参画が不十分に感じることがある ・目標設定は行っているが、振り返りが十分でない場合がある ・会議や話し合いの内容が全体に伝わり切らないことがある ・全体での長期目標(例:5か年計画)の共有があるとさらに良い 	

業務改善	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	23		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの意見や要望をスタッフ間で共有し、検討している ・保護者の意見を業務改善につなげるよう意識して取り組んでいる ・保護者向け評価表を活用し、改善の材料として活用している 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の意見の把握や改善への反映について、職員間で認識が不十分な場合がある ・全体での取り組みの浸透や可視化に改善の余地がある
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	25	1	<ul style="list-style-type: none"> ・人事考課や面談を通して、職員の意見を把握する機会を設けている ・朝礼やスタッフ会議、業務ミーティングで意見交換を行い、必要に応じて責任者に伝えている ・スタッフ間で話し合い、改善すべき内容を共有し、業務改善に反映している ・定期的にPDCAサイクルを意識して改善策を検討・実行している 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の自発性に依存する部分があり、意見が十分に出ない場合がある ・資料管理や情報の可視化が不十分（例：ペーパーレス化や共有方法の工夫） ・全員が平等に参画できていない場合があるため、より広く意見を吸い上げる仕組みの工夫が望ましい
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	14	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートや他施設からのアドバイスを参考に、改善につなげている ・外部コンサルタントによる事例検討を今後行う予定がある ・必要に応じて第三者評価を行い、結果を改善に活かす方針がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在は第三者による外部評価は実施されていない ・実施状況や評価の活用方法について職員間で認識が十分でない場合がある ・外部評価の仕組みや定期化など、制度として整備する余地がある
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	25		<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内や法人内で研修の機会を定期的に設けている ・ジョブメドレーなど外部研修も紹介・活用している ・毎月研修を受講するよう時間を確保している ・研修内容が有意義で、職員の知識・スキル向上に役立っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症関連の研修など、一部研修はその時々で対応しており計画的ではない ・年間計画を立てて研修の体系化・計画化を行う余地がある
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	26		<ul style="list-style-type: none"> ・支援プログラムは作成されており、令和6年には公表されている ・定期的に内容の更新や確認が行われている ・利用者や保護者に対して適切に公表されている 	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	26		<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント結果を基に、ニーズや課題をスタッフ間で話し合い、計画作成に反映している ・保護者への聞き取りを行い、支援計画作成に活用している ・スタッフ全員で分析・検討し、計画の精度を高める工夫を行っている ・計画作成が適切に実施されているという認識がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところ具体的な課題は挙がっていないが、継続的な見直しや共有の徹底が望ましい
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	26		<ul style="list-style-type: none"> ・児発管だけでなく、支援に関わる職員全員で計画作成時に話し合い、検討している ・適宜会議を開き、情報共有や意見交換を行っている ・複数の視点で子どもを評価し、統一した支援方針を決定している ・支援計画を職員間で確認し、共通理解を図る工夫をしている ・重心外会議など、必要に応じて関係者での検討が行われている 	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	25	1	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の会議で支援内容確認、共有を行っている。 ・一部職員の教育が不十分な為、計画の沿った支援が行われていない場面がある。 ・計画に沿って支援が行われている。 ・計画を立てる時に各部署のスタッフ間で共有され支援は出来ている。 ・個別支援計画実施表のファイルを作成し、それぞれの月別の目標、実施状況を記入しています。 ・計画説明後に計画に沿った活動支援を行っている。 ・行われている。 ・ミーティングの中で計画について情報共有を行い、周知に努めている。 ・計画の作成段階でみんなと話し合い意見を出し合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に大きな課題は挙がっていないが、継続的な会議参加と共通理解の徹底が重要
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	19	6	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の行動観察やノート、HUGなどを用いて、こどもの様子や変化を記録し、スタッフ間で情報共有している ・必要に応じて保護者から検査結果や情報を提供してもらい、アセスメントに活用している ・ミーティングなどで日常の観察結果を共有し、支援に反映している 	<ul style="list-style-type: none"> ・標準化されたツールやABAなどフォーマルなアセスメントの活用はほとんど行われていない ・インフォーマルなアセスメントも十分に活用されていない場合がある ・アセスメントの体系化や方法の統一、記録のルール化など改善余地がある

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	25		<ul style="list-style-type: none"> ・本人支援では5領域を含め、具体的な支援内容を明確に設定している ・支援計画で、どのような方法で支援を行うかを明記し、保護者の同意を得た上で実施している ・計画内容は適切に設定され、説明も行われている 	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	23	2	<ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりが案を出し、各部署で取りまとめを行っている ・月ごとに役割分担を決め、各自から活動案を提出してもらうなど工夫している ・長期休暇やお出かけ等、重要な活動はチームで事前打ち合わせを行い計画している ・各職種間で案を出し合い、様々な角度から立案している 	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の提出でも職員の半数しか案を出していない場合がある ・一部職員が「出来るかしら」と否定的な問いかけをすることがあり、チームでの積極的検討を阻害する場合がある ・立案に参加しない職員へのフォローや意識付けが必要
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	24	2	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や長期休暇に合わせた活動を取り入れている ・月ごとに職員から活動案を出し合い、プログラムを構築している ・サーキットや運動・遊びの組み合わせなど、固定化を防ぐ工夫をしている ・全員で案を出して新しい遊びや体験を取り入れている ・旬のイベントや季節感のある活動を計画に反映している 	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫が個人の自発性に依存しており、全体での統一的な工夫が不十分な場合がある ・全員で案を出しても、結果的に固定化してしまうことがある ・プログラムの多様性を継続的に確保するための仕組み化が望ましい
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	26		<ul style="list-style-type: none"> ・利用児の状況や特性に応じて、個別活動と集団活動を計画に反映している ・活動内容や時間帯に応じて、個別・集団を使い分けている ・長期休暇や朝の会など、集団活動の機会を適宜設けている ・計画書にも個別・集団の組み合わせが明記され、実施に反映されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・重心利用児の場合、集団活動の機会が限定的（長期休暇の朝の会のみなど） ・集団活動の機会や内容のバリエーションを増やす工夫が今後の課題
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	23	2	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーを決め、リーダー中心にその日の活動時間や配置を決めている ・ホワイトボードに役割や活動内容を記載して全員で共有している ・朝礼や昼礼、重心外スタッフ会議など、日々のミーティングで確認を行っている ・担当や活動内容、タブレット利用時間など、具体的に分担を確認している ・ミーティングによりスムーズに支援が行えるよう調整している 	<ul style="list-style-type: none"> ・打合せに参加しない職員がいる場合があり、全員での連携が必ずしも十分でない ・日によって打合せが行われないことがある
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12	13	<ul style="list-style-type: none"> ・支援後に直接打合せが難しい場合、共有ノートや付箋に記入して情報を共有している ・翌日の朝礼や昼礼で振り返り内容を伝達する工夫をしている ・必要時に個別で振り返りを行い、後日重心外会議等で共有している ・支援時の気づきや変化を都度確認し、情報共有につなげている 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時間や業務終了時間の関係で、支援後に全員で振り返りを行うことが難しい ・当日中の振り返りが必ずしも行っていない場合がある ・業務上、個人間や翌日での伝達に頼らざるを得ず、情報共有のタイムラグが発生
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	24	2	<ul style="list-style-type: none"> ・HUGやHUG連絡帳、支援計画実施表、裏書などを活用して記録を残している ・支援に入る前に記録を確認し、支援方針や対応の参考にしている ・記録を基に職員間で話し合い、支援の検証・改善に活用している ・気づいた点や変化を裏書等に記録し、改善に活かす工夫をしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・記録は行っているが、それが必ず改善に直接つながっているかの確認は不十分な場合がある
	23	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	26		<ul style="list-style-type: none"> ・半年に一度モニタリングを実施し、アセスメント結果を基に計画を見直している ・計画作成時には複数人の視点を取り入れて、より客観的に評価・検討している ・重心外会議などの機会を活用し、必要に応じて都度計画の変更や調整を行っている ・定期的に行うことで計画が最新の状況に即しているように努めている 	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	22	2	<ul style="list-style-type: none"> ・活動や課題学習、運動、生活能力向上、地域交流など、複数の基本活動を組み合わせ支援している ・長期休暇には工場見学や外出、地域へのお出かけなど、実体験を取り入れた活動を行っている ・活動の組み合わせにより、子どもたちの興味や発達段階に合わせた支援を工夫している 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域交流の機会が少ない（感染症対策など現状の制約が影響） ・活動内容が一部固定化しやすく、さらなるバリエーションの工夫が今後の課題 	

	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	23		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性に応じて、視覚的に選択肢を示す（カード提示、PECSの活用など） ・二者選択や複数選択など、自己決定できるように支援している ・子どもの発達や成長に応じて、自己決定の範囲を徐々に広げている ・時間配分や活動内容を工夫して、できることは自分で選んで行うよう促している 	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	25		<ul style="list-style-type: none"> ・児発管や担当スタッフが必ず参画できるように調整している ・会議後には他の職員に内容を共有し、情報の周知を徹底している ・新入職員が単独で参画することはなく、状況を理解した担当者が優先的に参加している ・担当者会議等で支援員とこどもの状況を情報共有している 	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	24	1	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて関係機関へ連絡し、情報共有を行っている ・医師や学校教員と連携し、支援に反映している ・病院や療育施設等の連絡先を利用児のファイルに入れ、緊急時に備えている ・支援会議やこども部会への参加を通じて、関係機関と情報共有している ・学校や関係機関の見学を行い、支援の統一を意識している 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の医療体制の取り組みが遅れている場合がある ・今後、他事業所や学校訪問などの機会を増やすことが望まれる
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	24	1	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時に学校での様子や下校時刻を先生や保護者から確認している ・下校時間や連絡の漏れ防止のため、ヒヤリハットやチェック表を活用している ・保護者と協力して、日々の時間割やプリントのコピーを共有し、ミスを防いでいる ・情報共有は密に行われ、送迎時の連絡調整にも反映されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校によっては連絡調整が十分でない場合がある
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	19	4	<ul style="list-style-type: none"> ・保育園や幼稚園等と情報共有を行っている ・情報共有や相互理解を意識して努めている 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生の利用者がいなかったため、就学前の施設との情報共有は行われていない ・参加経験がない、情報共有が十分でない場合もある
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	13	5	<ul style="list-style-type: none"> ・障害福祉サービス事業所等への情報提供の仕組みは理解している ・担当者会議等で情報提供を行うことを想定し、準備している 	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では、卒業・移行した利用者がいないため実際に情報提供は行っていない ・実施経験がなく、今後の対応に向けて準備中の状態
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	18	4	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて助言を受けている ・部会参加や月1回来所によるアドバイスを受けられる機会がある ・ST（言語聴覚士）コンサルタントの助言や支援アドバイスを受けている ・音楽療法やデジリハ等の専門的支援も取り入れられている 	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は助言や研修の機会がなかった場合がある ・一部のスタッフは連携の仕組みや状況がよくわかっていない ・研修参加の機会が少なく、今後時間を確保して参加したいとの意見がある
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	14	<ul style="list-style-type: none"> ・公園や図書館、地域イベントで他の子どもと関わる機会はある ・戸外活動で他放デイの子どもやスタッフと挨拶する程度の関わりはある 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接的な交流（児童館・放課後児童クラブとの合同活動）はほぼ行われていない ・他事業所の子どもとの交流もコロナ以降は実施されていない ・季節や人数、感染対策を考慮した上での交流は今後検討が必要
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	13	6	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な範囲で参加している ・児発管や管理者、担当者が参加している 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般職員の参加機会が少ない ・参加の周知が十分でない ・参加する時間の確保が難しい ・参加状況が不明な場合がある
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	26		<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時に保護者とこどもの様子を共有している ・メールやHUGなどのツールを活用して情報伝達している ・保護者から様子を聞き取り、スタッフ間でも情報共有している ・日々のやり取りを通して共通理解に努めている 	<ul style="list-style-type: none"> ・共有理解が十分かどうか分からない場合がある ・情報の伝達方法やタイミングをさらに工夫する余地がある
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	11	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援会議の場で保護者の悩みを聞き、支援方法や情報を伝えるようにしている ・県で実施されているペアレント・トレーニングの存在を把握している 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所として保護者向け研修や参加の機会には十分に提供できていない ・情報提供が不十分で、保護者に参加を勧める方法やタイミングが明確でない ・ペアレント・トレーニング等の研修実施を積極的に取り入れる余地がある
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	22	2	<ul style="list-style-type: none"> ・利用契約時に丁寧に説明を行っている ・負担変更や内容更新時には書面で提示し、必要に応じて口頭で補足説明を行っている ・運営に関する資料を配布して保護者にお知らせしている ・児発管や管理者から保護者に説明する体制が整っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部職員は説明の実施に直接関わっていない場合がある ・説明内容や方法が職員間で統一されていない場合がある 	

保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	25		<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントやモニタリングを基に、児童や保護者の意見・意向を確認している ・個別支援計画の作成時に、子どもや家族の意思を反映できるよう配慮している ・支援内容の調整や取り入れ方を、子どもの現状に応じて柔軟に考慮している 	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	25		<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の計画説明時に支援内容を説明し、同意を得ている ・計画内容を説明した上で、保護者から同意を取得している ・デジタルサインを活用し、同意取得を効率的に行っている 	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	26		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から相談があった際は、児発管やスタッフ間で共有し、検討した上で助言や支援を行っている ・送迎時やLINE、HUG等のツールを活用し、日常的に相談対応を行っている ・必要に応じて面談や支援会議の場を設け、保護者の悩みを聞く機会を確保している ・他職員の意見も踏まえて回答するなど、複数視点で対応している 	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	17	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ハロウィンパーティーや運動会、季節行事などのイベントを開催している ・年1回程度、家族（きょうだい含む）参加型のイベントを企画・実施している ・イベントを通して保護者同士が顔を合わせ、会話できる場を設けている 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者同士・きょうだい同士の「交流」まで十分に発展していない ・保護者会など定期的な交流の場は設けられていない ・交流を促進するための工夫（関わりを深める仕掛け）が不足している ・実施状況が分からない、または未実施と感じている職員もいる
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	24		<ul style="list-style-type: none"> ・苦情があった際は管理者へ報告し、組織的に対応している ・迅速かつ柔軟に対応する体制が整っている ・職員間で共有し、適切な対応につなげている 	<ul style="list-style-type: none"> ・周知（保護者への体制説明や見える化）についての記載が少なく、十分に伝わっているか不明 ・対応の流れや基準の統一・明確化を図る余地がある
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	20	4	<ul style="list-style-type: none"> ・HUGやメールを活用し、日々の活動や行事予定を発信している ・必要に応じてお便りを発行し、行事予定やスタッフ紹介等を伝えている ・LINE等を活用し、外出活動などの同意確認や連絡を行っている ・写真付きで活動の様子を共有し、保護者に分かりやすく伝えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPやSNSの更新が止まっており、十分に活用できていない ・HUG中心になったことで、通信（お便り）としての情報発信機会が減少している ・情報発信の方法が統一されておらず、職員によって認識に差がある ・情報発信の全体像が把握しづらい状況がある
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	23	3	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報を含む書類は機密書類として適切に管理している ・廃棄時は専門業者に依頼し、適切に処理している ・写真等は個人の携帯で撮影・保存しないよう配慮している ・職員全体で個人情報保護への意識を持って対応している 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部職員が個人スマートフォンで写真を撮影してそのままになっているケースがあり、管理の徹底が必要 ・個人情報の取り扱いルールの周知・統一をさらに強化する必要がある
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	26		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの特性に応じて、視覚的支援（カード・PECS等）を用いて情報伝達している ・二者択一など選択しやすい形で意思確認を行っている ・HUG等のツールを活用し、保護者との情報共有を行っている ・手話・筆記・口話（マスクを外す等）など状況に応じた伝達方法を使い分けている ・個々の特性に応じて柔軟にコミュニケーション方法を変更している 	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	11	<ul style="list-style-type: none"> ・ハロウィンパーティー等のイベントに家族を招待している ・日常の中で地域住民とすれ違った際に挨拶を行うなど、基本的な関わりを大切にしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民を招待するような取り組みは実施できていない ・地域との交流機会が少ない ・実施状況が分からない職員も多く、周知が不十分 ・感染対策を踏まえた上で、今後の実施方法の検討が必要
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	25	1	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルを作成し、必要に応じて見直しを行っている ・委員会等を中心にマニュアルの策定・周知を行っている ・定期的に訓練や読み合わせを実施している ・職員が訓練に参加できる体制が整っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯に関する訓練が十分に実施されていない ・訓練内容に偏りがあり、全項目での実施が不十分な可能性がある
47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	25		<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の避難訓練（火災含む）を実施し、振り返りも行っている ・風水害や地震など複数の災害を想定した訓練を実施している ・机上訓練と実動訓練の両方を取り入れている ・定期的に避難・救出等の訓練を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施状況について把握できていない職員がいる ・BCPの内容や訓練の周知・共有にばらつきがある可能性がある 	

非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	26		<ul style="list-style-type: none"> ・支援計画説明時に母子手帳やお薬手帳を確認している ・発作状況については保護者から動画提供を受けるなど、具体的に把握している ・緊急時対応ファイルを整備し、日常的に確認できる環境を整えている ・朝礼や看護師からの伝達により、職員間で情報共有を行っている ・服薬内容の変更時や支援会議時に情報を更新・共有している ・AED訓練を実施し、緊急時対応に備えている 	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	22	2	<ul style="list-style-type: none"> ・食事準備や介助時にアレルギーの有無を確認している ・食べられないものを掲示（冷蔵庫等）し、職員間で周知している ・朝礼や緊急時対応ファイルを活用し、情報共有を行っている ・医師の指示書に基づいた管理体制が整っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、医師の指示が必要な重度アレルギーの利用児がいないため、実際の対応経験が少ない
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	25		<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応を整備し、安全管理体制を構築している ・心肺蘇生法や送迎時の安全確保に関する研修を実施している ・設備面（カーテン交換等）の見直しを行い、安全な環境づくりに努めている ・利用児と職員の人数を把握し、状況に応じた安全配慮を行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・「安全計画」の具体的内容について職員の理解が不十分な部分がある ・安全計画の周知や位置づけの明確化が必要
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	19	1	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時対応を基に家族との連携を図っている ・緊急時対応作成時に家族へ確認を行い、内容を共有している ・文書配布により情報提供を行っている ・変更事項があった際はHUG等を活用して随時伝達している 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全計画に基づく取組内容の周知について、十分に認識されていない職員がいる ・周知方法や内容が統一されておらず、把握にばらつきがある ・「安全計画」としての位置づけが不明確な部分がある
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	26		<ul style="list-style-type: none"> ・朝礼や連絡ツール（BAND等）を活用し、迅速に情報共有を行っている ・ヒヤリハット発生時には報告書を作成し、職員間で共有している ・ヒヤリハット委員会を設置し、組織的に対応している ・発生後に会議を行い、再発防止策について検討している ・各部署および必要に応じて全体で話し合いを行い、業務改善につなげている 	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	25	1	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に虐待防止に関する研修を実施している ・外部研修への参加など、職員が学ぶ機会を確保している ・職員が研修に参加し、知識や意識の向上に努めている ・虐待防止に向けた取り組みが継続的に行われている 	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	25		<ul style="list-style-type: none"> ・やむを得ず身体拘束を行う場合は、状況を記録している ・事前に保護者へ十分な説明を行い、同意を得ている ・同意を得た内容を放課後等デイサービス計画に記載している ・組織的な判断のもとで対応が行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施状況について把握できていない職員がいる ・組織的な決定過程やルールの周知をさらに徹底する必要がある